

本格的な鑄造表現（ブロンズ鑄造）への取組み

美術教育講座・原田 義明

1. 授業の概要及び目的

本授業は、学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コース3回生を対象とした合同授業である。今年度の履修学生数は13名（美術教育専修3回生2名、4回生1名、造形芸術コース3回生9名、4回生1名）である。このうち、継続して履修した学生は11名。

本授業では、鑄造技法を使った作品制作を通して、金属素材の有する様々な性質や溶融金属の特性をみきわめて、これを造形的に処理して、生活のための“ものづくり”について理解を深めることが目的である。

《到達目標》

（1）鑄金技法による作品制作を通して、各工程（原型制作・鑄型製作・鑄造・仕上げ）について理解し説明できる。

（2）課題内容を理解し、それを生活に関わるものとして作品制作に生かすことができる。

（3）金属素材の特性を各自の制作意図に的確に反映させ、作品を具現化させることができる。

2. 授業の内容

これまで本授業では、課題を2つ設定して課題1では、ポリエステル樹脂を造形素材として、課題2では、金属を造形素材として、生活のためのものづくりをテーマに作品制作を行ってきた。しかし、時間的な制約の中、学生が1つの素材、技法に十分に向き合うことができなかつた。そこで今年度から、作品制作にじっくりと取り組めるよう課題を1つに絞り、内容も一新した。

具体的な課題内容は、鑄金技法による「花器」の制作。石膏（回転体）による原型制作→鑄型制作（CO2プロセス）→鑄造→仕上げ（鑄肌仕上げ、着色）、の一連の作業工程を全体、個人指導を組み合わせながら、受講生の進度に合わせて授業を展開した。授業最終日には、授業の習熟度を測る目的で各自にワークシートを作成させ、その後合評会を実施した。

3. 本格的な鑄造表現への取組み

鑄金（鑄造表現）が他の金工分野（鍛金、彫金）と違う点は、全工程の多くを原型制作や鑄型製作といった金属にする前の作業に費やすところである。つまり、この作業工程の良し悪しが鑄造後の作品のクオリティを決定するといっても過言ではない。普段目にする多くの鑄物作品もこの工程を経て作品化・製品化されている。今回は、学生が本格的な鑄造表現への取組みを通して、各工程での素材（石膏、鑄型、金属）や技法（縄繰法、CO2プロセス、着色法）と真摯に向き合う中、「素材」と「技法」、「表現」の関係を意識させる授業展開を試みた。

4. 授業改善のためのアンケート

授業最終日にアンケート調査を実施した。アンケートの冒頭でディプロマ・ポリシー（以下DP）に関する項目を設定し、①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとして4段階評価を行った。

DP以外の質問項目に関しては、問9までと問12は5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお、問10の回答は、①はい⑤いいえで答える事とし、問11は「はい」のみ選択回答、問13～15は記述式とした。

回答者9名

5. アンケート結果

【教育学部DPに関する質問項目】

この授業では、シラバスで重点項目をDP1にしていることから、今回はDP1のみ抽出する。

DP1. 教科に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。（知識・理解）③5名 ④4名

【授業の内容に関する質問】

1. 授業のテーマ・目標は授業展開の中で明確でしたか。

④3名 ⑤6名

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

④5名 ⑤4名

3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

③1名 ④1名 ⑤7名

【授業方法に関する質問】

4. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

④1名 ⑤8名

5. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

④1名 ⑤8名

6. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

⑤9名

7. この授業では、教材や資料が工夫されていましたか。

④1名 ⑤8名

8. この授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

④1名 ⑤8名

【受講生自身に関する質問】

9. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

③1名 ④2名 ⑤6名

10. あなたはこの授業に関する授業時間外学習を行いましたか。

①5名 ⑤4名

11. 10. で「はい」と答えた人のみ、お答えください。時間外学習の具体的な内容について以下から選んでください。(複数回答可)

①制作 6名 ②資料収集 1名

【授業全体に関する質問】

12. この授業は、制作の過程で思考が深められ、意図した表現が達成できるような課題設定と授業展開でしたか。

①1名 ④3名 ⑤5名

13. この授業全体の制作を通して、特に印象に残っている工程(原型制作、鋳型製作、鋳造、仕上げ(着色など))等について、その理由も含め記述して下さい。以下、13~15は、誤字・脱字を除き原文のまま転記。※下線は授業者。

○鋳造は迫力があり、緊張したので印象的。仕上げは着色が面白かった。

○原型制作。石膏を使用したこれだけ大きな型を作るのが初めてだったため、思ったより

簡単にきれいに作れて驚いた。

○素材の特性を生かした着色はとても面白かったです。回転体で原型をつくるのはおもしろかったです。

○鋳造・仕上げ。大がかりな鋳造する所を見られたことは良い経験になりました。仕上げの細かな作業が楽しかったです。

○鋳型製作。鋳造の出来映えを左右するかなり重要な工程で、この作業をいかに正確に丁寧に行うかで後の仕上げなどに関わってくると感じたから。

○着色。意外と時間がかからずおどろいた。

○仕上げの工程が特に印象に残っている。削りや磨きに時間をかけたので。

○仕上げ(着色)の変化が激しくて印象に残っている。

○原型制作。石膏にキズをつけないように気をつけた。

14. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○水場が混み合った。(水量的に)

○特記事項なし。他2名

15. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○もう少し多ければ、いろんな作品を見ることができたと思います。

○今回の人数ぐらいが活動しやすいと思います。

6. 地域社会をフィールドとした学生教育

今年度、三浦美術館と連携して、本授業を履修した工芸ゼミの学生を指導補助員としてワークショップを3月中旬に開催予定である。この取り組みを通して、学生が学んだ知識や技能を教育実践で活用する中、実践的指導力や造形的表現力の向上を図る。

7. 総括

今年度は、これまでの課題内容を大幅に見直し、本格的な鋳造表現による作品制作に取り組んだ。アンケートやここでは紙面の都合で割愛したワークシートからは、時間をかけて「素材」や「技法」と向き合うことで醸成される「表現」等があることに気付いた学生が多く見受けられた。今後は、地域社会(美術館)をフィールドとした学生教育に関連し、本授業を履修した工芸ゼミの学生が指導補助として参加するワークショップを、教育活動の実践の場として有効に機能させ、その効果を検証したい。